

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成28年8月12日(2016.8.12)

【公開番号】特開2016-73719(P2016-73719A)

【公開日】平成28年5月12日(2016.5.12)

【年通号数】公開・登録公報2016-028

【出願番号】特願2015-256862(P2015-256862)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 3 4

A 6 3 F 7/02 3 2 6 Z

【手続補正書】

【提出日】平成28年6月24日(2016.6.24)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

遊技を行うことが可能な遊技機であって、
 回路基板を収納する第 1 部材及び第 2 部材からなる基板ケースと、
 前記第 1 部材と前記第 2 部材とを封止状態とするために用いられる封印シールと、
 前記第 1 部材に設けられた第 1 部材側封印シール貼付部と、
 前記第 2 部材に設けられた第 2 部材側封印シール貼付部と、
 を備え、
 前記封印シールは、
 該封印シールの粘着力を低下させるために所定の溶剤が用いられたときに表示内容が消える溶剤変化部と、
各々の封印シールを識別可能な識別情報が表示された第 1 識別情報表示部と、
識別情報が符号化された符号情報が表示された第 2 識別情報表示部と、
周縁に形成された切込部と、
を有し、
前記第 1 識別情報表示部と前記第 2 識別情報表示部とは、前記所定の溶剤が用いられたときに表示内容が消えないものであり、
 前記第 1 部材側封印シール貼付部と前記第 2 部材側封印シール貼付部とに跨るように貼付されたときに該第 1 部材側封印シール貼付部と該第 2 部材側封印シール貼付部との境界部に位置しない部分に前記溶剤変化部が配置されている
 ことを特徴とする遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 1】

本発明は、遊技を行うことが可能な遊技機に関する。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0005】

そこで、この種の回路基板を、ベース体（第1部材）とカバー体（第2部材）とからなる基板ケースに収納するとともに、封印シールを貼付することにより開封された場合にはその痕跡が残るように封止状態とすることで、回路基板に不正行為が行われた可能性があることを容易に発見することができるようにしたものがある。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

前記課題を解決するために、本発明の請求項1に記載の遊技機は、
遊技を行うことが可能な遊技機であって、
回路基板を収納する第1部材及び第2部材からなる基板ケースと、
前記第1部材と前記第2部材とを封止状態とするために用いられる封印シールと、
前記第1部材に設けられた第1部材側封印シール貼付部と、
前記第2部材に設けられた第2部材側封印シール貼付部と、
を備え、
前記封印シールは、
該封印シールの粘着力を低下させるために所定の溶剤が用いられたときに表示内容が消える溶剤変化部と、
各々の封印シールを識別可能な識別情報が表示された第1識別情報表示部と、
識別情報が符号化された符号情報が表示された第2識別情報表示部と、
周縁に形成された切込部と、
を有し、
前記第1識別情報表示部と前記第2識別情報表示部とは、前記所定の溶剤が用いられたときに表示内容が消えないものであり、
前記第1部材側封印シール貼付部と前記第2部材側封印シール貼付部とに跨るように貼付されたときに該第1部材側封印シール貼付部と該第2部材側封印シール貼付部との境界部に位置しない部分に前記溶剤変化部が配置されている
ことを特徴としている。
この特徴によれば、溶剤により剥離した封印シールを再度貼付するといった不正行為を抑制できる。

本発明の手段1の遊技機は、

所定の遊技を行うことが可能な遊技機（例えば、スロットマシン1 / パチンコ遊技機1001）であって、

回路基板（例えば、遊技制御基板40 / 主基板1031）を収納する第1被覆体（例えば、ベース部材201 / ベース部材1201）及び第2被覆体（例えば、カバー部材202 / カバー部材1202）からなる基板ケース（例えば、基板ケース200 / 基板ケース1200）と、

前記第1被覆体と前記第2被覆体とを封止状態（例えば、基板ケースが開封されたらその痕跡が残るように閉鎖した第2封止状態）とするために用いられる封印シール（例えば、封印シール400 / 封印シール1400）と、

前記第1被覆体に設けられた第1被覆体側封印シール貼付部（例えば、ベース側封印部229 / ベース側封印部1229）と、

前記第2被覆体に設けられた第2被覆体側封印シール貼付部（例えば、カバー側封印部

２２４／カバー側封印部１２２４）と、
を備え、
前記封印シールは、

該封印シールの粘着力を低下させるために所定の溶剤が用いられたときに該溶剤が使用された痕跡を示す溶剤使用表示部（例えば、所定の剥離液と接触することにより該剥離液に溶解する特殊インクにて印刷形成された溶剤使用表示部４５０Ａ～４５０Ｄ／溶剤使用表示部１４５０Ａ～１４５０Ｄ）を有し、

前記第１被覆体側封印シール貼付部と前記第２被覆体側封印シール貼付部とに跨るように貼付されたときに該第１被覆体側封印シール貼付部と該第２被覆体側封印シール貼付部との境界部（例えば、境界部Ｚ）に位置しない部分に前記溶剤使用表示部が配置されている（例えば、図１５（Ａ）に示すように、封印シール４００は、基板ケース２００に貼付されたときに境界部Ｚに掛からない位置に溶剤使用表示部４５０Ａ～４５０Ｄが印刷されている。／図３０（Ａ）に示すように、封印シール１４００は、基板ケース１２００に貼付されたときに境界部Ｚに掛からない位置に溶剤使用表示部１４５０Ａ～１４５０Ｄが印刷されている。）

ことを特徴としている。

この特徴によれば、溶剤を使用して封印シールの粘着力を低下させようとした場合、該封印シールの溶剤使用表示部に該溶剤が使用された痕跡が残ることで、溶剤を使用して封印シールの粘着力を低下させようとしたことがわかるようになるため、溶剤により剥離した封印シールを再度貼付するといった不正行為を抑制できるとともに、封止状態としたときに溶剤使用表示部が境界部に掛かることがないので、例えば、遊技店において回路基板の検査等のために封印シールを破断して基板ケースを開放したことにより溶剤使用表示部が破断してしまうことで、それ以前に溶剤と接触した痕跡が表れていたことが判りにくく、なってしまいうことが防止される。